

公園利用に関する調査研究

—岐阜市黒野校下の場合—

渡邊義行*1, 寺田武義*2, 原田憲一*1

公園に遊びに来た子ども達の遊びの実態を岐阜市黒野校下の公園を対象に観察記録し、体育教育、体育社会学ならびに体育経営管理的見地から基礎資料を得ようとした。調査結果を4月～10月の温暖な時季と11月～12月の寒い時季に分け、また、金、土、日の曜日別に集計し、次の観点で検討した。すなわち公園利用者数、年齢別利用者数、公園を利用していた時間、公園を利用した時間帯、遊びのグループ数、遊びの種類と遊びの移り観点から分析した。

〈キーワード〉 体育教育、体育社会学、体育経営管理、観察記録、公園、遊び、公園利用者

1. はじめに

「遊ばない子」, 「遊べない子」の増大が指摘されてすでに久しい^{2) 9) 10) 13)}。岐阜市地区においてもこのようなことが生じているのだろうか。1992年渡邊ら¹⁴⁾が岐阜大学教育学部附属小学校児童を対象に子どもの遊び生活の実態を調べたところ、子どもたちは学習塾や稽古事で多忙な生活を強いられており、「遊び時間が欲しい」という要望が非常に大きいことがわかった。一方、遊びの内容として屋内で遊ぶテレビゲーム等が盛んで、子どもたちの遊びの主役をなしていたことが明らかになった¹⁴⁾。このようなことからすると、現代の子どもたちの戸外遊びが減少しているのではないかと推察される。そこで子どもたちの戸外遊びの実態はどの程度であるのかを知るために、遊び場所を「公園」に限定して、子どもたちの遊びの実態を把握し、体育教育、体育社会学ならびに体育経営管理的見地から基礎資料を得ようとした。

さて、わが国における公園は法律によって指示

され、施行されている。すなわち、日本国憲法⁷⁾ (1946年11月) 第25条〔生存権、国の生存権保障義務〕「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。②国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」を出発点として、地方自治法⁷⁾ (1947年4月) 第2条〔地方公共団体の法人格とその事務〕③一「地方公共の秩序を維持し、住民及び滞在者の安全、健康及び福祉を保持すること。」、二「公園、運動場、広場、緑地、道路、橋梁、河川、運河、溜池、用配水路、堤防等を設置し若しくは管理し、又はこれらを使用する権利を規制すること。」とし、児童福祉法⁷⁾ (1947年12月) 第40条「児童厚生施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設とする。」と述べ、児童遊園や公園は法律で指示した施設である。具体的には都市公園法⁷⁾ (1956年4月) を定め、国民が有する公園の平均面積等を指示し、また、都市計

*1 岐阜大学教育学部

*2 各務原市那加第二小学校

画法⁷⁾（1966年）により広場、公園等政令をもって指定する都市計画事業は内閣の承認を得れば必要な土地を収用または使用できるようにした。

一方、岐阜市においては、この都市公園法を受けて岐阜市都市公園条例⁴⁾（1969年4月）および岐阜市都市公園条例施行規則⁴⁾（1969年4月）を定め、公園の設置・管理を施行してきた。現在、1991年度を初年度として第5次都市公園等整備5箇年計画を策定し都市公園等の緊急かつ計画的な整備を推進している。1989年3月現在岐阜市が開設している公園は、児童公園217箇所、近隣公園12箇所、地区公園4箇所、総合公園3箇所、運動公園9箇所、風致公園17箇所、計262箇所である⁵⁾。このうち今回調査対象とした地区は、岐阜大学キャンパス（岐阜市柳戸）に隣接する岐阜市黒野校下に開設している児童公園9箇所と近隣公園1箇所の計10箇所であった。

II. 方法

1. 調査対象地区

本報で調査対象とした地区は岐阜市黒野校下の公園であった。黒野校下は4,801世帯、人口は男子7,119人、女子6,934人、計14,053人であり、児童数は1,027人である。調査した公園は10箇所

であり、その詳細な内訳（公園の種類、面積、遊具）は表1にまとめた。

2. 調査時期

調査した時期は表1に記したように、1991年4月～12月であった。

3. 調査曜日と調査時間

調査は金曜日、土曜日、日曜日の連続した3日間行った。各曜日における調査時間は次のとおりであった。

金曜日：15時00分から夕暮れまで

土曜日：12時30分から夕暮れまで

日曜日：8時30分から夕暮れまで

夕暮れ時間は次のとおりであった。

4月は18時40分、6月は19時00分、9月は18時20分、10月は18時00分、11月は17時00分、12月は16時40分であった。

4. 調査方法

公園を利用した人が何時に現れ、何時に帰ったか、その間どのような遊びを行ったかを時間推移とともに観察記録した。さらに、公園を利用した人が公園を去る時に、その人の学年および年齢を聞き取った。

表1 調査公園名、公園の種類、面積、遊具施設および調査月

公園名	種類	面積	遊具施設	調査月
黒野西公園	児童公園	3,644m ²	ブランコ6 砂り台1 砂場1 鉄棒3 プール1 登り棒1	4月
黒野洞公園	児童公園	1,614m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 鉄棒3 プール1	4月
黒野城跡公園	近隣公園	19,474m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 鉄棒3	6月
折立公園	児童公園	992m ²	ブランコ6 砂り台1 砂場1 プール1	9月
黒野城南公園	児童公園	840m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 鉄棒3 プール1	10月
共和公園	児童公園	976m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 鉄棒3	11月
交人公園	児童公園	5,629m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 プール1	11月
芭蕉公園	児童公園	725m ²	ブランコ2 砂り台1 プール1 シーソー1	11月
御望公園	児童公園	954m ²	ブランコ4 砂り台1 砂場1 鉄棒3 プール1	12月
黒野公園	児童公園	552m ²	ブランコ6 砂り台1 砂場1	12月

Ⅲ. 結果と考察

1. 公園利用者数

表2は各公園を曜日別に利用した延べ人数(A)とそれを1時間当りの人数(B)で表したものである。金曜日の公園利用者数は計109人、土曜日は計196人、日曜日は計206人であった。

表2 公園利用者数 (人)

	金 曜 日		土 曜 日		日 曜 日	
	A	B	A	B	A	B
黒野西公園	26	7.1	42	6.8	45	3.7
黒野洞公園	11	3.0	28	4.5	50	4.1
黒野城跡公園	41	10.3	45	6.9	37	3.4
折立公園	15	4.5	34	5.8	5	0.5
黒野城南公園	16	5.3	12	2.2	12	1.3
共和公園	0	0.0	9	2.0	23	2.7
交人公園	0	0.0	1	0.2	3	0.4
芭蕉公園	0	0.0	4	0.9	10	1.2
御望公園	0	0.0	16	3.8	21	2.6
黒野公園	0	0.0	5	1.2	0	0.0
平 均	10.9	3.0	19.6	3.4	20.6	2.0

A：延べ人数、 B：時間当り人数

これを1公園当りの利用者数で表すと金曜日10.9人、土曜日19.6人、日曜日20.6人であった。また、各曜日の調査時間が異なるので、1時間当りの人数で表すと、金曜日は3.0人、土曜日は3.4人、日曜日は2.0人であった。この結果から、年間を通した公園利用者数はほぼ1時間に2～3人といえよう。

これを4月～10月までの温暖な時季に調査した公園と11月～12月の比較的寒い時季に調査した公園に2分して集計すると表3のようになる。4月～10月の公園利用者数は11月～12月のそれより圧

表3 季節別公園利用者数 (人)

	金 曜 日			土 曜 日			日 曜 日		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
4月～10月	109	21.8	6.0	161	32.2	5.2	149	29.8	2.6
11月～12月	0	0.0	0.0	35	7.0	1.6	57	11.4	1.4

A：延べ人数、 B：1公園当り人数、 C：時間当り人数

倒的に多かった。やはり暖かい時には公園利用者が多く、寒いと少ない。4月～10月の曜日別公園利用者を見ると、金曜日は5つの公園で延べ109人、土曜日が161人、日曜日が149人であった。この利用者数を時間当りで表すと、金曜日が6.0人で最も多く、次いで土曜日5.2人、最も少なかったのは日曜日2.6人であった。11月～12月の曜日別公園利用者は金曜日0人、土曜日35人、日曜日57人、時間当りでは金曜日0.0人、土曜日1.6人、日曜日1.4人であり、曜日による特徴はなかった。

表3で示したように4月～10月の1日に最大の公園利用者数は土曜日の161人／5公園であった。黒野校下の公園数は10箇所であるから土曜日の公園利用者総数は推定161人×2＝322人が見積られる。黒野校下の総人口は14,053人であるから、約2.4%の人が公園を利用したことになる。

2. 年齢別公園利用者数

年齢別公園利用者数を4月～10月に調査した公園と11月～12月に調査した公園に分け、曜日別に表4に示した。先ず4月～10月についてみると、どの曜日とも最も利用が多かったのは小学生低学年で、金曜日29人、土曜日37人、日曜日40人であった。次いで多かったのは小学生中学年で、金曜日18人、土曜日37人、日曜日33人であった。大人の利用者は以外に多く、第3番目であった。第4番目が幼児であった。幼児の場合、ほとんど大人同伴での利用であった。したがって、大人の利用数－幼児の利用数＝大人単独の利用数とみなすと、大人単独の利用者数はわずか数名になり、中学生より少ない数となる。中学生の公園利用者は小学生より少なかったが、日曜日においては18人おり、小学生高学年の5人より多かった。この日曜日小学生高学年利用者がわずか5人であったの

表4 年齢別公園利用者数 (人)

[金 曜 日]						
	幼 児	小 学 生			中学生	大 人
		低学年	中学年	高学年		
黒野西公園	2	7	10	2	0	5
黒野洞公園	3	4	2	0	0	2
黒野城跡公園	4	6	1	13	6	11
折立公園	3	8	1	0	0	3
黒野城南公園	4	4	4	0	0	4
計	16	29	18	15	6	25
共和公園	0	0	0	0	0	0
交人公園	0	0	0	0	0	0
芭蕉公園	0	0	0	0	0	0
御望公園	0	0	0	0	0	0
黒野公園	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0
[土 曜 日]						
	幼 児	小 学 生			中学生	大 人
		低学年	中学年	高学年		
黒野西公園	12	12	4	1	2	11
黒野洞公園	0	4	11	9	3	11
黒野城跡公園	6	6	12	13	6	11
折立公園	9	10	6	2	0	7
黒野城南公園	2	5	4	0	0	4
計	29	37	37	25	11	34
共和公園	9	10	6	2	0	7
交人公園	0	0	0	0	0	1
芭蕉公園	1	3	0	0	0	0
御望公園	6	1	5	0	5	1
黒野公園	3	0	0	0	0	2
計	19	14	11	2	5	11
[日 曜 日]						
	幼 児	小 学 生			中学生	大 人
		低学年	中学年	高学年		
黒野西公園	9	13	8	4	2	8
黒野洞公園	8	8	13	1	9	11
黒野城跡公園	7	8	8	0	6	8
折立公園	3	8	1	0	0	3
黒野城南公園	3	3	3	0	1	2
計	30	40	33	5	18	32
共和公園	4	5	3	7	0	4
交人公園	1	2	0	0	0	0
芭蕉公園	4	2	3	1	0	0
御望公園	8	1	6	4	0	2
黒野公園	0	0	0	0	0	0
計	17	10	12	12	0	6

は、何か特別な理由でもあったのであろうか。

11月～12月の金曜日はどの年齢層も0人であった。この時季寒くなると、学校から帰ると家の中での遊びをしているのであろう。土曜日になると公園利用者はあるが、4月～10月の人数に比べると約1/2～1/3の人数であった。幼児が最も多い19人、次いで小学生低学年の14人、中学年の11人であった。小学生高学年は2人、中学生は5人と著しく少なかった。日曜日においては土曜日とほぼ同様な傾向で幼児が最も多い17人であった。中学年と高学年が12人づつおり、低学年が10人であった。土曜日と日曜日の特徴的な相違は日曜日の中学生の利用者が0人であったことであろう。

中学生はこの時季、家に閉じ籠っていたのであろうか。

さて、黒野校下の児童数は1,027人であった。4月～10月の小学生の公園利用者は金曜日62人×2=124人、土曜日99人×2=198人、日曜日78人×2=156人が見積られる。したがって黒野校下の金曜日は12%、土曜日は19%、日曜日は15%の者が公園を利用したことになる。11月～12月においては、黒野校下の土曜日5%、日曜日6%の者が公園を利用していた。小学生の校下当りこの公園利用者率をどう解釈するかについての比較の材料は今のところない。

3. 公園利用時間

表5 公園利用時間 (人)

[金 曜 日]						
	～15分	～30分	～60分	～90分	～120分	121分～
黒野西公園	7	6	8	3	2	0
黒野洞公園	2	7	2	0	0	0
黒野城跡公園	12	12	11	6	0	0
折立公園	8	4	3	0	0	0
黒野城南公園	3	7	6	0	0	0
計	32	36	30	9	2	0
共和公園	0	0	0	0	0	0
交人公園	0	0	0	0	0	0
芭蕉公園	0	0	0	0	0	0
御望公園	0	0	0	0	0	0
黒野公園	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0
[土 曜 日]						
	～15分	～30分	～60分	～90分	～120分	121分～
黒野西公園	9	10	21	2	0	0
黒野洞公園	9	5	6	2	2	4
黒野城跡公園	7	28	2	5	3	0
折立公園	8	7	8	9	2	0
黒野城南公園	0	2	7	1	0	2
計	33	52	44	19	7	6
共和公園	5	2	0	2	0	0
交人公園	1	0	0	0	0	0
芭蕉公園	0	0	1	3	0	0
御望公園	0	6	10	0	0	0
黒野公園	2	0	3	0	0	0
計	8	8	14	5	0	0
[日 曜 日]						
	～15分	～30分	～60分	～90分	～120分	121分～
黒野西公園	18	12	11	4	0	0
黒野洞公園	13	14	4	11	0	8
黒野城跡公園	11	10	16	0	0	0
折立公園	1	4	0	0	0	0
黒野城南公園	4	2	6	0	0	0
計	47	42	37	15	0	8
共和公園	5	3	6	5	4	0
交人公園	0	0	3	0	0	0
芭蕉公園	2	1	6	1	0	0
御望公園	11	2	0	5	3	0
黒野公園	0	0	0	0	0	0
計	18	6	15	11	7	0

表5に公園を利用した時間を示した。金曜日は15分以内が32人、30分以内が36人、60分以内が30人であり、約90%がこの時間内であった。4月～10月の温暖な時季の土曜日の利用者は30分以内が52人で最も多く、次いで60分以内の44人、15分以内の33人であり、したがって60分以内で約80%を占めていたことになる。さらに90分も利用した者が19人で約10%あった。11月～12月の土曜日は60分以内が14人で最も多く15分と30分以内が8人ずつであった。4月～10月の日曜日の利用者は15分以内が47人で最も多く、次いで30分以内が42人、60分以内が37人であり、この15～60分以内で約85%であった。11月～12月の日曜日の利用者は15分以下が18人で最も多く、次いで60分以内が15人、90分以内が11人あった。120分以内が7人もあり、冬の日曜日は公園利用時間が長くなりがちであっ

た。1973年高橋ら¹²⁾は大阪府下の児童を対象に屋外遊戯時間を調べて、平日平均1時間29分、土曜日平均2時間46分、日曜日平均4時間1分を報告している。屋外での遊び場所は公園とは限らず、裏道路、空地、庭、田畑、池川、校庭、神社、寺等色々である。高橋ら¹²⁾の報告にはこれら遊び場所別の時間は調査していないので、公園での遊び時間については不明である。今回の調査で公園利用時間が以上のように明らかになった。

4. 公園利用時間帯

公園を利用した時間帯は図1に示した。図中—●—は4月～10月を、—○—は11月～12月の公園利用者数を表している。金曜日の4月～10月は17時20分頃ピーク人数となり、5つの公園の合計

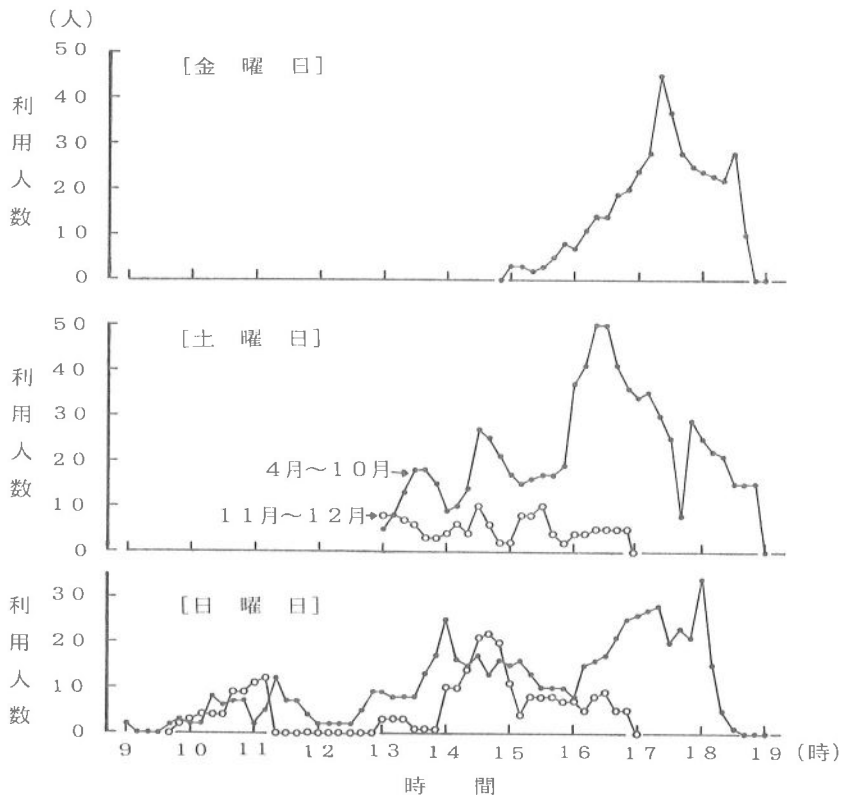


図1 公園利用人数動態

人数が40人以上であった。土曜日の4月～10月は16時20～30分頃がピーク人数となり、金曜日より1時間程早い時間であった。このピーク時の人数は50人であった。11月～12月はピーク人数はなく、10人以下の数名がパラパラと利用していた。日曜日の4月～10月は11時20分頃10数人、14時00分頃20数人、18時00分頃30数人という3つのピーク人数で公園が利用されていた。11月～12月においても3つのピーク人数が観察され、11時10分頃の10数人、14時40分頃の20数人、16時30分頃の10人程度であった。日曜日のピーク人数は金・土曜日と比べ少なかった。利用時間帯が分散したのである。

表6 公園での遊びグループ数 (人)

	[金 曜 日]			
	1人	2～3人	4～5人	6人以上
黒野西公園	2	1	1	0
黒野洞公園	0	3	1	0
黒野城跡公園	1	2	2	2
折立公園	1	2	1	0
黒野城南公園	1	5	1	0
計	16	31	6	2
共和公園	0	0	0	0
交人公園	0	0	0	0
芭蕉公園	0	0	0	0
御望公園	0	0	0	0
黒野公園	0	0	0	0
計	0	0	0	0

	[土 曜 日]			
	1人	2～3人	4～5人	6人以上
黒野西公園	0	1	2	2
黒野洞公園	1	9	3	1
黒野城跡公園	5	7	1	3
折立公園	1	1	0	0
黒野城南公園	0	4	0	1
計	7	4	7	7
共和公園	0	9	3	0
交人公園	1	0	0	0
芭蕉公園	0	1	1	0
御望公園	0	1	5	0
黒野公園	0	2	0	0
計	1	1	9	0

	[日 曜 日]			
	1人	2～3人	4～5人	6人以上
黒野西公園	4	1	1	0
黒野洞公園	7	1	2	3
黒野城跡公園	3	1	1	0
折立公園	0	3	0	0
黒野城南公園	1	1	2	0
計	15	4	6	3
共和公園	0	7	0	0
交人公園	0	1	0	0
芭蕉公園	2	4	1	1
御望公園	0	5	8	0
黒野公園	0	0	0	0
計	1	1	9	1

5. 遊びグループ数

公園で遊んでいる時の遊びグループ数は表6に示した。曜日、時季に関係なく最も多かったのは2～3人のグループであった。金曜日は55グループ中31グループの56%が、土曜日は65グループ中44グループの68%と23グループ中13グループの57%が、日曜日は71グループ中47グループの66%と28グループ中17グループの61%が2～3人のグループで遊んでいた。1人遊びは金曜日16人の29%、土曜日7人の11%、日曜日15人の21%であったが、11月～12月になるとわずか1人と少なくなった。11月～12月になるとむしろ4～5人のグループ遊びが多くなり、土曜日、日曜日とも9グループであった。高橋ら⁸⁾は1973年に児童の屋外遊戯集団成員数を調査して、2～3人のグループが半数であったと報告しているが、本調査においても同様な結果が得られた。7人位が楽しく遊ぶ理想的な人数と高橋ら⁸⁾は指摘しているが、このように遊び仲間が小人数化している。遊びがいつでも中断でき、遊ぶ内容が多様化するほど、遊ぶ人数が少ない方が対応しやすいのであろう。

6. 遊びの数

表7は公園で遊んだ遊びの数である。4月～10月についてみると、金曜日は遊びの数が「1つ」が最も多い60人、次いで「2つ」の遊びが31人であり、この両者で81%であった。土曜日の遊びの数は「1つ」が77人、「2つ」が43人で計120人おり、約75%を占めていた。日曜日は「1つ」が101人で最も多く68%を占めていた。日曜日の遊びの数が「2つ」は26人で、金曜日31人、土曜日43人に比べて少ない人数であった。11月～12月は土曜日が「1つ」の遊び12人、「2つ」が5人で合せて45%、日曜日の「1つ」遊びは16人、「2つ」遊びは12人で合せて48%であった。11月～12

表7 公園で遊んだ遊びの数 (人)

[金 曜 日]					
	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ
黒野西公園	15	6	2	3	0
黒野洞公園	2	6	3	4	0
黒野城跡公園	25	8	4	2	2
折立公園	10	5	0	0	0
黒野城南公園	8	6	2	0	0
計	60	31	11	9	2
共和公園	0	0	0	0	0
交人公園	0	0	0	0	0
芭蕉公園	0	0	0	0	0
御望公園	0	0	0	0	0
黒野公園	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

[土 曜 日]					
	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ
黒野西公園	17	14	5	6	0
黒野洞公園	13	5	1	3	6
黒野城跡公園	24	18	0	3	0
折立公園	17	2	9	6	0
黒野城南公園	6	4	0	0	2
計	77	43	15	18	8
共和公園	4	3	2	0	0
交人公園	1	0	0	0	0
芭蕉公園	1	0	0	3	0
御望公園	4	2	5	1	4
黒野公園	2	0	0	0	3
計	12	5	7	4	7

[日 曜 日]					
	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ
黒野西公園	31	6	3	2	3
黒野洞公園	37	5	1	1	6
黒野城跡公園	25	6	6	0	0
折立公園	3	2	0	0	0
黒野城南公園	5	7	0	0	0
計	101	26	10	3	9
共和公園	7	3	7	1	5
交人公園	0	3	0	0	0
芭蕉公園	3	0	3	4	0
御望公園	6	6	3	4	3
黒野公園	0	0	0	0	0
計	16	12	13	9	8

月は4月～10月と比べ各曜日とも「1つ」あるいは「2つ」遊びとも減少しており、寒くなると遊びの種類が増大するようであった。

7. 遊んだ遊び名と遊びの移り

表8は公園で遊んだ遊びの名前と遊びの変遷である。金曜日は計21種の遊びがあり、土曜日は計29種、日曜日は計28種の遊びの種類であった。公園に来て「1つ」の遊びだけをして帰った者は金曜日54人の50%、土曜日90人の46%、日曜日105人の51%であった。約半数の者が「1つ」の遊びをして帰って行った。残りの約半数は「2つ」以上の遊びを行っていた。公園に現れると、まず

「ブランコ」へ行き、それでしばらく遊んで次の遊びへ移って行った。金曜日の「ブランコ」遊びを最初に行った者は24人、土曜日は52人、日曜日は40人であった。このことから「ブランコ」は最も人気のある遊具のようである。「すべり台」はどの公園にも常設されているが、その利用数は金曜日11人、土曜日48人、日曜日29人であり「ブランコ」に次いで利用されていた。「砂場遊び」は金曜日8人、土曜日15人、日曜日16人であり、利用人数は少なかった。「鉄棒」は金曜日0人、土曜日22人、日曜日16人で、ほぼ「砂場」の利用数並みであった。

齊藤¹¹⁾は1981年子どもの遊びの調査を千葉県成田市と埼玉県入間市について実施し、成田市については303種を、入間市については325種の遊びの種類を報告している。今回の公園での遊び調査においては30種程度の遊びの種類が観察されたが、この数が多いのか、あるいは少ないのかについては今のところ何ともいえない。齊藤¹¹⁾は、現代の子どもの遊びの数は爆発的に増加していること、そして半世紀昔の遊びはその中に13%継承されわずかに生き延びていると指摘している。「ブランコ」「鉄棒」「野球」「縄跳び」「馬跳び」「かけっこ」「散歩」(歩くこと)の7種類は、齊藤¹¹⁾の「昔の子どもの遊び」のリストの中に入っている。この昔の遊びが公園遊びに占め割合は $7/30=23\%$ にも及んでいたといえよう。

8. 魅力ある児童公園

児童公園の三種の神器を「砂場・すべり台・ブランコ」という⁹⁾が、確かに本調査対象となった公園にはすべてこの3種遊具がそろっていた。そしてこのうち「ブランコ」が最も人気があった。これら遊具を備えれば児童公園はこと足れりというのではない。蜂須賀ら⁸⁾はオープン・スペース

表 8 公園で遊んだ遊びの名前

[金 曜 日]		(人)	
1つの遊び	2つの遊び	3つの遊び	4つの遊び
サッカー 1	1	草遊び・フラコ・砂遊び 1	フラコ・すり 台・登り棒・樹へ 3
キャッチボール 8	8	草遊び・フラコ・散歩 1	フラコ・すり 台・樹へ・クイ 転丸 3
散 歩 8	8	ローラースケート・樹へ・フラコ 2	フラコ・すり 台・砂遊び・散歩 1
ブランコ 6	すり 台・フラコ 4	フラコ・川遊び・フラコ 1	自転車・川遊び・フラコ・すり 台 1
虫取り 5	フラコ・樹へ 3	川遊び・フラコ・ゲーム 1	
草遊び 3	フラコ・ボール遊び 3	自転車・キャッチボール・野球 1	
自転車 3	自転車・縄跳び 2	砂遊び・散歩・フラコ 1	
水遊び 2	散歩・ランニング 1		
かけっこ 2	散歩・川遊び 1	5つの遊び	
砂遊び 1	散歩・フラコ 1		
すべり台 1	自転車・フラコ 1	ボール遊び・すり 台・フラコ・砂遊び・散歩・フラコ 1	
ローラースケート 1	フラコ・まご 1	フラコ・川遊び・フラコ・ゲーム・すり 台 1	
爆竹 1	ボール遊び・野球 1		
お 話 1			
バスケットボール 1			
[計 21 種]			

[土 曜 日]		(人)	
1つの遊び	2つの遊び	3つの遊び	4つの遊び
ブランコ 2	0	サッカー・バスケットボール 1	5
散 歩 1	5	フラコ・すり 台・草遊び 5	フラコ・鉄棒・すり 台・鬼ごっこ 4
すべり台 1	1	棒遊び・お話・鬼ごっこ 5	フラコ・靴とぬいすり 台・草遊び 4
ゴム跳び 8	すり 台・フラコ 3	フラコ・すり 台・フラコ 3	シーソー・フラコ・ボール遊び・まご 3
鬼ごっこ 7	フラコ・ボール遊び 3	キャッチボール・草遊び・まご 2	フラコ・草遊び・虫取り・まご 3
キャッチボール 4	サッカー・フラコ 2	フラコ・虫取り・まご 2	フラコ・すり 台・フラコ・草遊び 3
タイヤ転丸 4	フラコ・すり 台 2	鉄棒・フラコ・鉄棒 2	魚釣り・フラコ・鬼ごっこ・砂遊び 2
サッカー 3	フラコ・砂遊び 2	フラコ・すり 台・野球 1	フラコ・散歩・草遊び・砂遊び 1
野 球 3	フラコ・まご 2	フラコ・散歩・すり 台 1	散歩・ボール・ボール遊び・お話 1
自転車 3	すり 台・鉄棒 2	フラコ・草遊び・まご 1	散歩・フラコ・砂遊び・フラコ 1
砂遊び 3	ボール遊び・フラコ 2		お話・十字架はこ・お話・砂遊び 1
魚釣り 3	お医者さんご・ごっこ遊び 1		魚釣り・フラコ・鬼ごっこ・フラコ 1
バレーボール 2		5つの遊び	
バドミントン 2		散歩・お話・十字架はこ・お話・砂遊び 3	
ままごと 1		ボール遊び・フラコ・鉄棒・フラコ・すり 台・バスケットボール 3	
ボール遊び 1		フラコ・すり 台・自転車・砂遊び・フラコ 3	
		フラコ・お話・鉄棒・お絵かき・お医者さんご 2	
		散歩・すり 台・十字架はこ・お話・砂遊び 1	
		散歩・フラコ・砂遊び・フラコ・草遊び 1	
		砂遊び・フラコ・草遊び・砂遊び・フラコ 1	
		フラコ・砂遊び・野球・バスケットボール・フラコ 1	
[計 29 種]			

[日 曜 日]		(人)	
1つの遊び	2つの遊び	3つの遊び	4つの遊び
散 歩 3	3	すり 台・フラコ・すり 台 3	フラコ・縄跳び・ボール・石投げ 3
ブランコ 1	6	ボール遊び・すり 台・お話 3	鬼ごっこ・ボール遊び・すり 台・お話 3
野 球 9	フラコ・砂遊び 4	砂遊び・フラコ・ボール 3	すり 台・フラコ・鬼ごっこ・草遊び 2
すべり台 8	フラコ・お話 3	フラコ・すり 台・自転車 2	フラコ・ボール遊び・ドッジボール・ボール遊び 1
キャッチボール 7	すり 台・自転車 3	野球・フラコ・ボール遊び 2	鉄棒・散歩・馬跳び・散歩 1
サッカー 7	フラコ・すり 台 2	フラコ・縄跳び・ボール遊び 1	
自転車 5	フラコ・散歩 2	フラコ・鉄棒・石投げ 1	
砂遊び 5	バドミントン・キャッチボール 2	フラコ・鉄棒・お絵描き 1	
かけっこ 3	自転車・砂遊び 2	鉄棒・馬跳び・散歩 1	
魚釣り 3	野球・鬼ごっこ 2		
MTB 3	鉄棒・散歩 2	5つの遊び	
バドミントン 2	馬跳び・散歩 2		
テニス 2	フラコ・鉄棒 1	鉄棒・フラコ・散歩・フラコ・散歩 4	
草遊び 1	フラコ・鬼ごっこ 1	フラコ・縄跳び・ドッジボール・ボール遊び・縄跳び・フラコ 3	
お絵描き 1	縄とび・フラコ 1	フラコ・樹へ・鉄棒・フラコ・草遊び 3	
	縄とび・ボール 1	フラコ・鉄棒・フラコ・鉄棒・フラコ 2	
	虫取り・散歩 1	ボール遊び・すり 台・お話・フラコ・ボール・ごっこ遊び 2	
	お話・ゴム跳び 1	鬼ごっこ・すり 台・砂遊び・フラコ・散歩 1	
		お話・砂遊び・散歩・石投げ・ボール・ごっこ遊び 1	
[計 28 種]			

を中心とした多目的に利用できるように設計したいとし、また、小林⁸⁾は広場のほかに便利、娯楽、観賞、教養などの設備も具備したものを設置しなければならないとした。このほかに、周りの住宅環境、自然環境も配慮した適正配置¹⁵⁾の問題もあろう。子どもにとって魅力ある公園とはどのようなものであるかよく熟慮して設計する必要がある。一方においては何の手を加えない、「ガラクタ」を放置してあるだけの広場も子どもにとって魅力があり、より創造的な遊びが生じやすいともいう¹⁾。

今回調査対象となった10の公園のうち最も利用者数の多かったのは表2に示したように「黒野城跡公園」であった。この公園は表1に整理したように約20,000㎡の広さの近隣公園で、他の公園は5,000㎡以下の狭い児童公園であった。黒野城跡公園はこのような広さを有しているので、ソフトボールコート2面取れるほどのオープン・スペースがあり、また、公園の周囲は樹木で囲まれ、外周は掘りになっていて魚釣りとか土手遊びもできるようになっている。このような自然的条件を沢山備えているから最も人気があったのであろう。魅力ある児童公園を設置するよう関係当局に期待したいものである。

IV. 要約

本研究の目的は公園に遊びに来た子ども達の遊びの実態を把握し、体育社会学ならびに体育経営管理学的見地から基礎資料を得ることであった。調査した公園は、岐阜市黒野校下に開設されている10公園であった。調査時期は1991年4月～12月であった。調査曜日は金曜日、土曜日、日曜日と3日連続して調査した。調査時間は金曜日15時00分～、土曜日12時30分～、日曜日8時30分～それぞれ夕暮れまでであった。調査は観察記録法によった。本調査で観察された結果を要約すると次

のとおりであった。

1) 公園利用者数は金曜日3.0、土曜日3.4、日曜日2.0人/時間/公園であった。時間当りの曜日別公園利用者数は4月～10月は金曜日が最も多く、次いで土曜日、日曜日の順であった。11月～12月は曜日による特徴はなかった。4月～10月における1日の最大利用者数は土曜日の322人が見積られ、校下人口の約2.4%であった。

2) 年齢別公園利用者数は4月～10月においては小学生低学年が最も多く、次いで小学生中学年、大人、幼児の順であった。大人は幼児同伴が多く、大人単独の利用者はわずかであった。11月～12月は幼児が最も多く、次いで小学生低学年、中学年の順であった。黒野校下の児童数当りの利用者率は4月～10月は金曜日12、土曜日19、日曜日15%であり、11月～12月は土曜日5、日曜日6%であった。

3) 公園利用時間は4月～10月は15～30分が最も多く、次いで30～60分、15分以下、60～90分の順であった。11月～12月は15分以下が最も多かったが、60～90分、90～120分の者もかなりいた。

4) 公園利用のピーク時間帯は4月～10月の金曜日17時20分頃、土曜日16時20～30分頃、日曜日は11時10分頃、14時00分頃、18時00分頃であった。11月～12月の日曜日は11時10分頃、14時40分頃、16時30分頃であった。

5) 遊びグループ数は約60%の者が2～3人のグループで遊んでいた。4月～10月の一人遊びは金曜日29%、土曜日11%、日曜日21%であった。11月～12月の一人遊びはほとんどおらず、4～5人のグループ遊びが多かった。

6) 4月～10月の遊びの数のうち、「1つ」と「2つ」を合せて金曜日は81%、土曜日は75%を占めていた。日曜日は「1つ」が68%と多かったが、「2つ」は他の曜日と比べ少なかった。11月～12月は「1つ」「2つ」を合せて土曜日45%、日曜日48%であった。

7) 遊びの種類は金曜日21種、土曜日29種、日曜日28種であった。約半数が「2つ」以上の遊びをしたが、先ず最初に「ブランコ」で遊ぶ者が非常に多かった。「すべり台」は「ブランコ」に次いで利用されていた。「砂場遊び」と「鉄棒」の利用者は少なかった。

V. 文献

- 1) 一番ヶ瀬康子, 泉 順: 子どもの生活圏, 日本放送出版協会, 1974.
- 2) 深谷昌志: 遊びを楽しむ子どもたちはどこへ, 児童心理 47 28-33, 1993.
- 3) 藤本浩之輔: 子どもの遊び空間, 日本放送出版協会, 1974.
- 4) 岐阜市: 岐阜市令規集, ぎょうせい.
- 5) 岐阜市都市公園課: 岐阜市の公園緑地, 1989.
- 6) 蜂須賀弘久, 野原弘嗣, 宮田和信: 体育・スポーツの普及振興に関する提言(第1報)ー行政の立場からみた京都市における体育施設の現状と課題ー, 京都教育大学紀要 Ser. A, 60 71-90, 1982.
- 7) 岩波大六法 平成4(1992)年版: 岩波書店, 1992.
- 8) 小林 繁: 都市児童公園の考察, 四天王寺女子大学紀要 2 1-31, 1969.
- 9) 小林芳文: 子どもの遊び その指導理論, 光生館, 1984.
- 10) 小川博久: 「遊び」についての教育学的考察, 「子どもの遊び」の諸見解における「遊び」概念の検討(1), 東京学芸大学紀要 第1部門 26 1-15, 1975.
- 11) 斉藤修平: 児童の遊戯の移りかわり, 体育の科学 31 345-355, 1981.
- 12) 高橋健夫, 丹羽劭昭: 児童の屋外遊戯時間に及ぼす社会的原因, 体育社会学研究 3 227-263, 1974.
- 13) 東京都生活文化局: 大都市における児童・生徒の生活・価値観に関する調査, 1990.
- 14) 渡邊義行, 野田恵子, 原田憲一, 杉原 和, 廣瀬治良, 上松美由紀: 岐阜大学教育学部附属小学校児童の遊びに関する研究ー学校体育の立場からの検討ー, 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学) 17 69-89, 1993.
- 15) 湯本貞子: 遊びの研究ー子どもの生活権の確保のための生活圏の確保としてー, 教育心理研究 5 63-68, 1973.